

おらほの病院

97

「あたたかな医療をめざして」

諏訪中央病院 リレーコラム

高血圧で診療所通院中の農作業を行うくらい元気な独居生活を送っている87歳の女性が、リビングでバランスを崩して尻もちをついた瞬間に臀部痛を自覚。直後は動けて自力でソファーに移動し、安静にしていたが起き上がろうとした時、激痛で動けず、当院に救急搬送された。整形外科医の評価で手術は要さない骨盤骨折と診断、体動困難なため疼痛コントロールとリハビリ目的で入院となった。

本症例は骨粗鬆症が原因で軽微な外傷により発症した典型的な脆弱骨折である。当院では主に総合診療科とリウマチ膠原病内科で筋骨格系内科診療の一環として手術を要さない骨折症例入院管理を担っており、今回リウマチ膠原病内科担当の上、疼痛コントロール・リハビリ・退院調整を行いながら、次の骨折予防(二次予防)のため骨密度及びFRAX(スコア)で脆弱性骨折リスク評価を行い、脆弱骨折リスクが高いと判断し、骨粗鬆症薬を導入した。外来患者さんに対しては、骨粗鬆症外来にて、こうした評価及び、かかりつけ医に対して骨粗鬆症薬の推奨を行っている。

しかし次に挙げるように脆弱骨折診療体制の課題は山積みである。

諏訪中央病院

内科系診療部長補佐兼リウマチ・
膠原病内科部長兼経営戦略室副室長

みのだ まさひろ
袁田 正祐

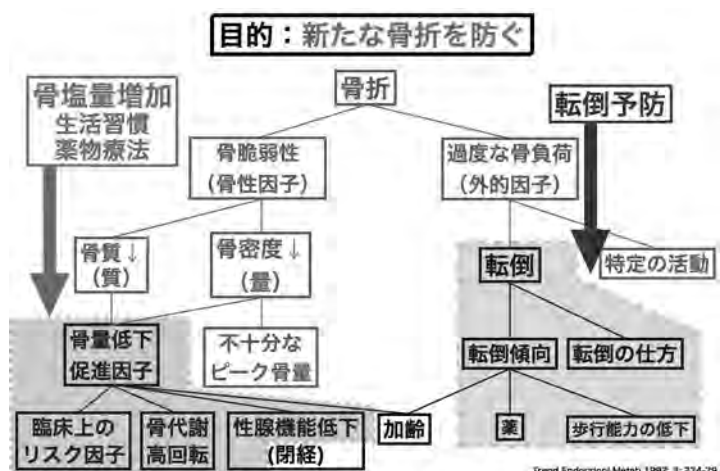


図1

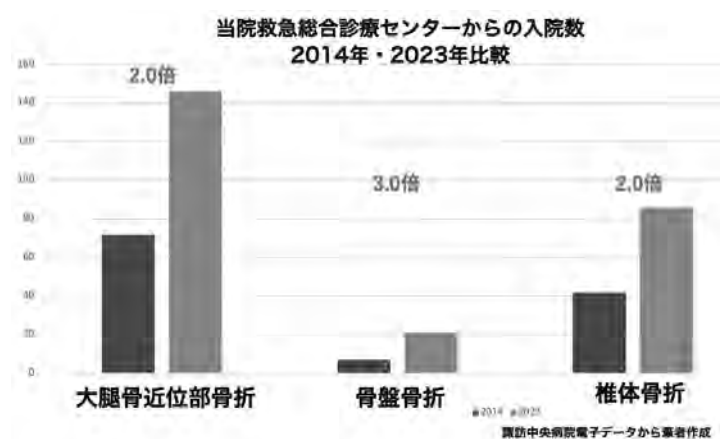


図2

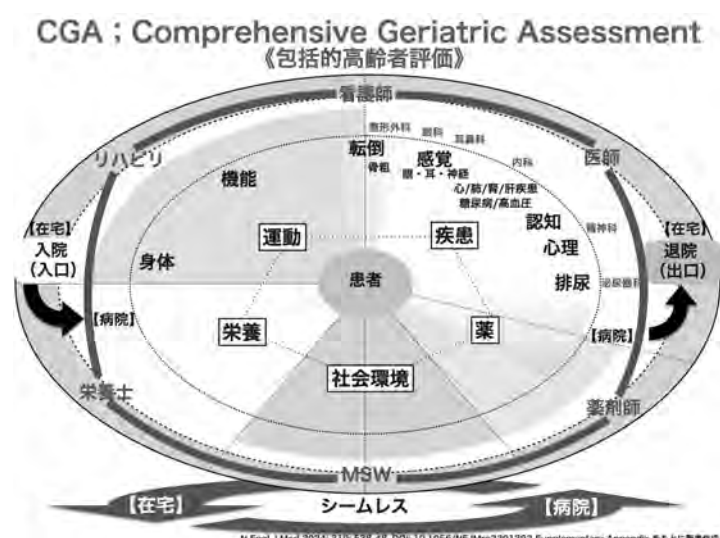


図3

「転ばないで」と言うのは簡単だが...

①骨折予防対策として、骨量増加と転倒予防が重要である(図1)。骨粗鬆症薬導入や生活習慣改善により骨量増加は見込めるが、現状、転倒予防に関しては、「転ばないで」の一言で、転倒予防対策が不十分である。

②次の骨折予防(二次予防)対策が中心で、骨折ゼロを目指す(一次予防)対策ができていない。

③当院救急外来における2023年の脆弱骨折症例数は約100件、2014年と比較すると約2倍に増

加しており(図2)、今後人口高齢化が進む中、更に増加することが予想される。

当院は救急から在宅診療まで診るケアミックス病院であり、地域ニーズに対応した中核病院として必要とされる医療供給体制を社会的共通資本として維持・発展させてきた。今後、少子高齢化・生産年齢人口減少に対して、当院が提供すべき医療の一つは予防的観点でCGA(Comprehensive Geriatric Assessment)

袁田正祐(みのだ・まさひろ)
内科系診療部長補佐兼リウマチ・膠原病内科部長兼経営戦略室副室長。

市立堺病院にて初期研修。諏訪中央病院にて内科後期研修・内科総合診療部勤務の後、平成24年から亀田総合病院リウマチ膠原病内科にて後期研修。平成27年4月より諏訪中央病院。

冒頭の症例は、リハビリを行うも独居生活不可能と判断、入院7週目に高齢者施設へ退院となった。同様の経過をたどる方が一人でも減るよう今後当院においてCGA普及と介入に努めていく。

次回は11月3日掲載予定
(題字は鎌田實名誉院長)